

参考図書紹介

養蜂家向け！ 養蜂マニュアル

平成22年から24年の農林水産省の事業、「産地収益力向上支援事業全国推進事業（みつばち安定確保支援事業）」で製作された養蜂家向けの養蜂マニュアル（みつばち協議会編）全3冊が公開されている。第一冊は女王の作り方から伝染病対策を中心とし、第二冊は経営、第三冊はミツバチの優良系統作出をテーマに構成されている。

近年は、海外の養蜂技術などを紹介した書籍が刊行されたり、インターネットを通じてさまざまな養蜂に関する情報が入手できるが、日本

の養蜂の教科書的位置づけであった「近代養蜂」（渡辺・渡辺，1974）がさすがに年月が経ち、新しい情報が求められていた。この3冊は、現在の日本の養蜂の実態に即した情報を提供しており貴重な資料となっている。

公共事業成果物として、必要とするあらゆる人が、無償でダウンロードして利用可能となっている。ダウンロードは（一社）日本養蜂協会のウェブサイトからできる。

URL <http://www.beekeeping.or.jp/>

上記から「みつばち協議会」→「各種マニュアル」→「養蜂家向けマニュアル」とたどって各マニュアルをダウンロードする。



編集後記 「ミツバチ科学」は長らく休刊状態となっていたが、今回、2012年以降に投稿された記事を集めて、刊行することができた。執筆者の方には、公開まで長い時間をかけてしまい、大変申し訳ない。執筆から掲載までに時間がかかったことで、記事内容の時間的な表記にずれが生じたり、所属先や記事内の名称等が変更になっている点などについてもお詫び申し上げたい。

前半の教育関連2報は、長年、教育の中に養蜂を活用してきた鶴見大学附属中学・高等学校の実践例と、農業高校として、ミツバチを自在に教材として扱ってきた岡山県立高松農業高等学校の事例をそれぞれ紹介いただいた。昨今、都市養蜂なども増え、児童・生徒を含めて、単発でのミツバチに接する機会は増えている。しかし、単元としてミツバチを取り入れたり、課外活動として取り組むことで、より長期的に、かつ多様な接点からミツバチに関心を持つ児童・生徒を増やすことの重要性の高さが、この二つの事例にはよく現れている。後半の疾病関係3報のうち、ノゼマ病の記事は総説で、特に新しいノゼマ病についてまとめて構成したものである。アメリカ腐蝕病に関連する2報は、いずれも蜂病検査などで養蜂の後方支援をしておられる家畜保健衛生所の関係者による投稿で、国内の蜂病の最先端の事情がよく伝わってくる。家畜保健衛生所では以前より「ミツバチ科学」の掲載記事への関心が高いが、読者から執筆者へと役割を広げているという意味で、貴重な投稿と考えている。ミツバチの疾病は多様化し、かつての知識では対応できない部分も多く、今後とも国内の事情を反映した情報提供を続けるために、さらに疾病対応の現場からの投稿には期待したい。最後に、ミツバチ科学の読者の皆様にも、必要なときに必要な情報をお届けする機能が失われていることについてお詫びしたい。 (中村)